

琉球大学学術リポジトリ

九州南部と琉球列島から確認されたヒキマユメイチ (スズキ目フエフキダイ科)

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学資料館 (風樹館) 公開日: 2020-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渋谷, 駿太, 緒方, 悠輝也, 三木, 凉平, 和田, 英敏, 本村, 浩之, Shibuya, Shunta, Ogata, Yukiya, Miki, Ryohei, Wada, Hidetoshi, Motomura, Hiroyuki メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/46853



九州南部と琉球列島から確認されたヒキマユメイチ (スズキ目フエフキダイ科)

渋谷駿太¹・緒方悠輝也^{2,3}・三木涼平^{2,4}・和田英敏⁵・本村浩之^{6,7}¹ 〒 890-8580 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院農林水産学研究科² 〒 889-0517 宮崎県延岡市赤水町 376-6 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド (水産実験所)³ 〒 889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西 1-1 宮崎大学大学院農学研究科⁴ 〒 887-0031 宮崎県日南市戸高 1-12-1 南那珂農林振興局⁵ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-24 鹿児島大学大学院連合農学研究科⁶ 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館⁷ 連絡先 motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

要約．宮崎県南部の沿岸と鹿児島県喜界島からヒキマユメイチ 2 個体 (標準体長 206.7–383.5 mm) が採集された．本種は国内において八重山諸島と琉球列島 (詳細な産地不明) からのみ記録されており，今回得られた標本は宮崎県と喜界島からの初めての記録であり，前者は本種の分布の北限記録となる．さらに，写真資料の検討によって，本種は屋久島と沖永良部島にも分布することが明らかになった．したがって，ヒキマユメイチは，国内では九州南部から琉球列島全域に広く分布していると考えられる．

はじめに

フエフキダイ科魚類 Lethrinidae は，主にインド・太平洋の熱帯から温帯域に分布し，日本からは 5 属 29 種が知られている (下瀬 2018)．本科魚類の多くは重要な水産資源として利用されており，その中でもメイチダイ属 *Gymnocranius* は漁獲量が少ないため，高級魚として扱われる (下瀬 2018)．本属は日本から 7 種が知られているが (島田 2013, 三木ら 2014)，このうちヒキマユメイチ *Gymnocranius superciliosus* Borsa, Béarez, Paijo & Chen, 2013 は，国内において八重山諸島を含む琉球列島で漁獲され，沖縄県内の市場から購入された標本のみが知られていた (三木ら 2014; 秋田ら 2016; 下瀬 2018)．沖縄県内の市場では琉球列島のいずれかの場所で漁獲され，詳細な産地が明らかでない漁獲物が水揚げされることが多々あるため，本種の国内における正確な分布域は明らかにされていなかった．

2019 年 3 月 30 日に宮崎県日南市から串間市にかけて，2019 年 11 月 27 日に鹿児島県喜界町 (奄美群島喜界島) においてヒキマユメイチに同定される各 1 個体が採集された．これらの標本は九州および産地が明らかな琉球列島における本種の初めての記録であり，前者は本種の北限記録となるため，ここに報告する．また，本研

究で写真資料の検討をおこなったところ，大隅諸島屋久島と奄美群島沖永良部島からも本種の分布が確認されたため，あわせて報告する．

材料と方法

計数・計測方法および体各部の名称は Hubbs & Lagler (1947) と三木ら (2014) にしたがった．標準体長 (standard length) は体長または SL，全長 (total length) は TL と表記した．標本の作製，登録，撮影，および固定方法は本村 (2009) に準拠した．計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位まで行った．ヒキマユメイチの色彩の記載は固定前に撮影された写真 (図 1) と写真資料 (図 2) に基づく．本報告に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており，標本の生鮮時の写真および写真資料は同館のデータベースおよび神奈川県立生命の星・地球博物館の魚類写真資料 (KPM-NR) に登録されている．なお，神奈川県立生命の星・地球博物館の資料番号は，博物館のデータベース上では 0 を含めた 7 桁の数字で表記される (例えば，KPM-NR 0205368)．

結果と考察

Gymnocranius superciliosus Borsa, Béarez, Paijo & Chen, 2013

ヒキマユメイチ
(図 1, 2; 表 1)

標本．KAUM-I. 134725, 体長 206.7 mm, 尾叉長 238.1 mm, 鹿児島大島郡県喜界町・奄美群島喜界島 (28°19'31"N, 129°56'13"E), 水深 5–15 m, 2019 年 11 月 27 日, 釣り, 和田英敏; KAUM-I. 138245, 体長 383.5 mm, 尾叉長 424.9 mm, 宮崎県日南市黒島から串間市市木幸島沿岸・日向灘 (31°30'16"N, 131°23'20"E から 31°26'25"N, 131°22'46"E の間), 2019 年 3 月 30 日, 定置網,

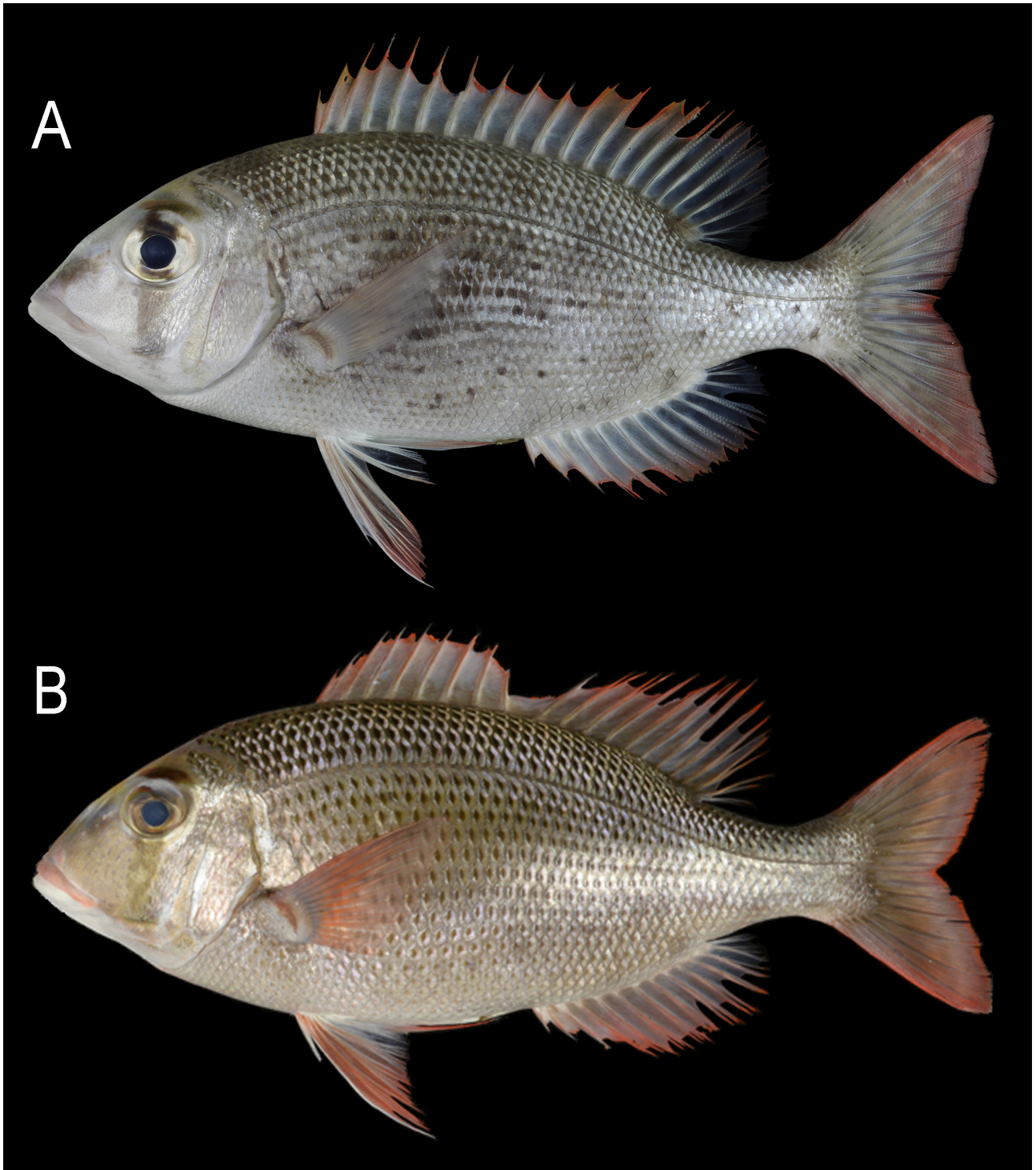


図1. ヒキマユメイチ *Gymnocranius superciliosus* (A: KAUM-I. 134725, 体長206.7 mm, 喜界島で釣獲; B: KAUM-I. 138245, 体長383.5 mm, 宮崎県南部で漁獲).

Fig. 1. Fresh specimens of *Gymnocranius superciliosus* from Japan. A: KAUM-I. 134725, 206.7 mm SL, Kikai Island, Amami Islands; B: KAUM-I. 138245, 383.5 mm SL, southern Miyazaki Prefecture, Kyushu.

東水産 (生鮮時写真は KPM-NR 205372A-C).

写真資料. KPM-NR 205368A-B, 全長約 30 cm, 鹿児島県大島郡知名町住吉住吉港・奄美群島沖永良部島 (27°21'38"N, 128°31'29"E), 水深約 5 m, 2015 年 9 月 23 日, 釣り, 山崎大悟撮影; KPM-NR 205369A-B, 全長約 60 cm, 鹿児島県大

島郡和泊町伊延伊延港沖・奄美群島沖永良部島 (27°25'31"N, 128°38'19"E), 水深約 50 m, 2018 年 6 月 9 日, 釣り, 山崎大悟撮影; KPM-NR 205370A, 全長約 56 cm, 鹿児島県熊毛郡屋久島町栗生浜海水浴場付近・大隅諸島屋久島 (30°15'15"N, 130°25'16"E), 水深 2.0-5.0 m, 2018 年 8 月 14 日,

釣り, 中島衛撮影; KPM-NR 205371A, 全長約 50 cm (採集地点, 採集環境, 採集方法は KPM-NR 205370A の個体と同じ), 2018 年 9 月 9 日, 中島衛撮影.

記載. 計数形質と体各部の体長に占める割合を表 1 に示した. 体は前後方向に長い楕円形で側扁する. 体高は背鰭第 4 棘付近で最大となる. 体背縁は吻端から背鰭第 6 棘基部にかけて緩やかに上昇し, そこから尾柄部前端にかけて緩やかに下降する. 体腹縁は下顎先端から背鰭第 7 棘基部下にかけて緩やかに下降し, そこから尾柄部前端にかけて緩やかに上昇する. 胸鰭基底上端は主鰓蓋骨後端のやや後方に位置し, 胸鰭基底下端は腹鰭第 3 軟条基部直上に位置する. 胸鰭先端は僅かに尖り背鰭第 8 棘基部下に位置する. 背鰭起部は腹鰭起部直上に位置し, 背鰭第 1 軟条基部は臀鰭第 3 棘基部上付近に位置する. 背鰭基底後端は臀鰭基底後端よりも僅かに前方に位置する. たたんだ腹鰭の後端は臀鰭起部に達しない. 臀鰭起部は背鰭第 9 棘と第 10 棘の基部下間に位置する. 尾鰭は二叉型を呈し, 両葉後端は尖り, 上下葉の後縁はやや丸い. 眼および瞳孔は正円形. 眼隔域は平坦. 鼻孔は 2 対で近接し, 両鼻孔ともに正円形. 前鼻孔の後縁に皮弁を有する. 体は櫛鱗に被われるが, 前鰓蓋骨後縁よりも前方の頭部は, 側頭部上方の

被鱗域を除いて無鱗. 背鰭, 腹鰭, 臀鰭および胸鰭基底部内側は無鱗. 胸鰭基底部外側は小鱗に被われる. 両顎には円錐歯が 1 列に並び, 先端にはそれぞれ犬歯状歯がある. 第 1 鰓弓の鰓耙は短く, こぶ状. 側線は完全で, 鰓蓋上部から尾柄にかけて体背縁に並走する.

色彩. 標本個体の色彩 — 鮮時の色彩は図 1 に基づく. 体側は概ね薄く紫がかった銀白色. 体側各鱗の中央部には楕円状の黒褐色斑があり, 体側の点列を形成する. 眼下方の吻部から頬部にかけて淡青色斑点が散在し, 両鼻孔の後縁から両眼の前縁にかけて 1 淡青色帯がある (図 1B; KAUM-I. 138245 にのみ確認された). 眼直上に眼径とほぼ同径の 1 黒褐色斑がある. 眼下から間鰓蓋骨上にかけては瞳孔と同径の 1 黄褐色帯がある. 背鰭は基底部付近で黄褐色, 上縁付近が朱色. 臀鰭は基底部付近で黄褐色, 上縁付近が朱色. 臀鰭最終軟条は白色. 胸鰭は朱色で, 基部には三日月状の赤褐色帯がある. 腹鰭第 1 棘と第 1 軟条は白色で, 第 2 軟条から第 3 軟条にかけて朱色がかかる. 尾鰭は黄褐色で縁辺は朱色を帯びる.

写真記録個体の色彩 — 鮮時の写真記録の色彩は図 2 に基づく. 眼下方の吻部から頬部にかけて淡青色斑点が散在し, 両鼻孔の後縁から両眼の前縁にかけて 1 淡青色帯がある. 眼直上に



図2. ヒキマユメイチ *Gymnocranius superciliosus* (A: KPM-NR 205368A, 全長約30 cm, 沖永良部島で撮影; B: KPM-NR 205369A, 全長約60 cm, 沖永良部島で撮影; C: KPM-NR 205370A, 全長約56 cm, 屋久島で撮影; D: KPM-NR 205371A, 全長約50 cm, 屋久島で撮影).

Fig. 2. Fresh individuals of *Gymnocranius superciliosus* from Japan. A: KPM-NR 205368A, ca. 30 cm TL, Okinoerabu Island, Amami Islands; B: KPM-NR 205369A, ca. 60 cm TL, Okinoerabu Island, Amami Islands; C: KPM-NR 205370A, ca. 56 cm TL, Yaku Island, Osumi Islands; D: KPM-NR 205371A, ca. 50 cm TL, Yaku Island, Osumi Islands. Photos by D. Yamazaki (A–B) and M. Nakajima (C–D).

眼径とほぼ同径の1黒褐色斑がある。眼直下から間鰓蓋骨上にかけては瞳孔と同径の1褐色帯がある。背鰭と臀鰭は上縁付近が朱色。胸鰭は朱色で、基部には三日月状の赤褐色帯がある。腹鰭第1棘と第1軟条は白色で、第2軟条から第3軟条にかけて朱色がかかる。尾鰭縁辺は朱色を帯びる。

分布．タイプ産地：ニューカレドニア、八重山諸島を含む琉球列島（詳細な産地は不明：はじめに参照）およびオーストラリア北東部からフィジー周辺にかけての太平洋南西部から記録されている (Myers 1999; Allen & Erdmann 2012; Borsa et al. 2013; 三木ら 2014; 秋田ら 2016; 下瀬 2018)．本研究によって標本に基づき宮崎県南部の沿岸と喜界島、写真に基づき屋久島と沖永良部島における分布も確認された (図3)．

備考．記載標本は主上顎骨に鋸歯状隆起がない、頬部に鱗をもつ、背鰭軟条数が10、胸鰭軟条数が14、および臀鰭軟条数が10であることなどの形態的特徴が Carpenter & Allen (1989) と Carpenter (2001) の示したメイチダイ属 *Gymnocranius* の標徴とよく一致した。さらに、眼直上に眼径よりもやや小さい楕円形の黒褐色斑がある、頭部と体側面の横帯が眼を通る1黒色横帯のみである、体側各鱗の中央部には楕円状の黒褐色斑があり、体側の点列を形成する、背鰭と臀鰭の縁辺が赤みを帯びる、体長が背鰭起部における体高のおよそ2.6倍である、背鰭第5棘直下の側線上方横列鱗数が6であることなどの特徴が Borsa et al. (2013) と三木ら (2014) が報告したヒキマユメイチ *G. superciliosus* の標徴とよく一致したことから本種に同定された。写真資料の個体 (図2) についても、上記の色彩的特徴を有することからヒキマユメイチに同定された。

記載標本の背鰭最長軟条長や臀鰭前長などの計測形質は、三木ら (2014) の示した値と若干の変異がみられた。しかし、三木ら (2014) の記載は6標本 (体長 189–306 mm) に基づくものであり本種の種内変異を十分に把握できていない可能性もあることから、これら相違は種内変異内に含まれると判断した。喜界島産の標本 (KAUM-I. 134725, 体長 206.7 mm) には Borsa et al. (2013) と三木ら (2014) が本種の標徴の1つとして扱った眼の前下方の吻部から頬部にかけて散在する数十の淡青色小斑点と両鼻孔の後縁から両眼の前縁にかけての1淡青色帯が確認されなかった。なお、Borsa et al. (2013) は体長 214–430 mm の個体を観察し、小型個体においてはこれらの標徴が不明瞭であるとしており、本

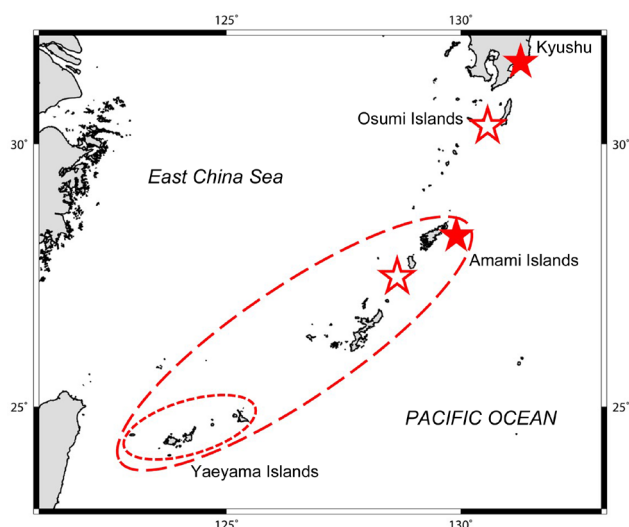


図3. 日本領海におけるヒキマユメイチ *Gymnocranius superciliosus* の分布 [星印: 本研究によって観察 (白抜きは写真記録に基づく)、破線: 先行研究において示唆された分布]．

Fig. 3. Distribution of *Gymnocranius superciliosus* in Japanese waters. Open and closed star symbols indicate photographic and specimen-based records in this study, respectively. Broken circles indicate the possible capture areas of previous records.

標本においてもこの標徴が未発達であるものと考えられる。

太田ら (2008) は、ヒキマユメイチと同じフエフキダイ科魚類のアマクチビ *Lethrinus erythracanthus* Valenciennes, 1830 に関して、2005年3月から2007年6月に八重山諸島近海から水揚げされた最小個体が全長 35 cm であったことを報告した。この報告について畑ら (2018) は、同海域において水深 100 m 以深にも生息するアマクチビと同じフエフキダイ科魚類 (キツネフエフキ *Lethrinus olivaceus* Valenciennes, 1830 やムネアカクチビ *Lethrinus xanthochilus* Klunzinger, 1870 など) の小型個体 (全長 20 cm 程度) が漁獲されているにも関わらず当該種の小型個体 (< 35 cm) の記録がないことから、八重山諸島近海におけるアマクチビの小型個体の出現が極めて稀であると推測している。一方で、秋田ら (2016) は、2011年から2014年にかけて八重山漁業協同組合と泊魚類市場において尾叉長 21–50 cm のヒキマユメイチが水揚げされ、2014年における年間の推定漁獲量は 569 kg であったことを報告した。畑ら (2018) は、トカラ列島近海から得られたアマクチビ (体長 479.0 mm) が黒潮の輸送による偶発的な出現である可能性が高いことを示唆している。しかしながら、ヒキマユメイチは周年にわたり比較的小型の個体の水揚げが確認されていることから、琉球列島周辺で再生

表1. 日本産ヒキマユメイチ *Gymnocranius superciliosus* の計数・計測形質.Table 1. Counts and measurements, expressed as percentages of standard length, of Japanese specimens of *Gymnocranius superciliosus*.

	Kikai Island KAUM-I. 134725	Miyazaki KAUM-I. 138245
標準体長 Standard length (mm; SL)	206.7	383.5
計数形質 Counts		
背鰭鰭条数 Dorsal-fin rays	X, 10	X, 10
臀鰭鰭条数 Anal-fin rays	III, 10	III, 10
胸鰭軟条数 Pectoral-fin rays	14	14
腹鰭鰭条数 Pelvic-fin rays	I, 5	I, 5
背鰭棘部中央下の側線上方横列鱗数 Above lateral line scales	6	6
側線下方横列鱗数 Below lateral line scales	17	17
有孔側線鱗数 Pored lateral-line scales	48	49
計測形質 (体各部の体長に対する割合) Measurements (% SL)		
背鰭起部における体高 Body depth at dorsal-fin origin	38.4	38.2
臀鰭起部における体高 Body depth at anal-fin origin	36.0	35.0
鰓孔直後における体幅 Body width behind gill opening	15.4	15.2
頭長 Head length	32.6	29.9
吻長 Snout length	12.6	14.3
眼窩径 Orbit diameter	10.2	8.1
上顎長 Upper-jaw length	10.0	10.3
眼隔域幅 Interorbital width	12.0	10.9
最小尾柄高 Least caudal-peduncle depth	11.3	11.1
尾柄長 Caudal-peduncle length	19.1	19.1
背鰭前長 Pre-dorsal-fin length	40.5	39.8
臀鰭前長 Pre-anal-fin length	64.5	62.5
腹鰭前長 Pre-pelvic-fin length	39.0	37.8
背鰭基底長 Dorsal-fin base	50.8	49.7
臀鰭基底長 Anal-fin base	24.0	23.0
腹鰭棘長 Pelvic-fin spine length	16.5	broken
腹鰭第1軟条長 1st pelvic-fin ray length	23.9	22.0
胸鰭長 Pectoral-fin length	26.7	25.0
背鰭第1棘長 1st dorsal-fin spine length	5.6	4.8
背鰭第2棘長 2nd dorsal-fin spine length	broken	7.6
背鰭第3棘長 3rd dorsal-fin spine length	12.1	10.2
背鰭第4棘長 4th dorsal-fin spine length	12.5	10.2
背鰭第10棘長 10th dorsal-fin spine length	10.5	9.6
背鰭最長軟条長 Longest dorsal-fin soft ray length	17.6	16.5
臀鰭第1棘長 1st anal-fin spine length	4.0	3.7
臀鰭第2棘長 2nd anal-fin spine length	7.6	6.1
臀鰭第3棘長 3rd anal-fin spine length	10.3	8.6
臀鰭最長軟条長 Longest anal-fin soft ray length	13.1	12.4

産をおこなっており、同海域には一定の個体数が生息していると考えられる。

これまで知られていたヒキマユメイチの国内における分布記録は八重山諸島を含む琉球列島（詳細な産地不明：はじめに参照）からのみであり、九州東岸、屋久島、および奄美群島の魚類相を扱った研究においても本種は記録されていない (Iwatsuki et al. 2017; Motomura & Harazaki 2017; 小枝ら 2018; Nakae et al. 2018; 村

瀬ら 2019). 近年、黒潮による成魚輸送によって、沖縄県以南を主な分布域とする海産硬骨魚類の大型個体の単発的な出現が南日本沿岸から複数記録されている (伊東ら 2011; Hata et al. 2015; 藤原ら 2017; 山崎ら 2019; 和田ら 2019). 宮崎県沿岸からは、ヒキマユメイチと同じフエフキダイ科魚類の幼魚 [マトフエフキ *Lethrinus harak* (Forsskal, 1775) (体長 126.1 mm) やキツネフエフキ *L. olivaceus* (体長 168.7 mm) など] が記録

されているが(村瀬ら 2019), 今回宮崎県南部から得られたヒキマユメイチは尾叉長 424.9 mm であることから成魚と判断される。さらに, 本個体の出現が散発的であることから前述の事例と同様に黒潮による成魚輸送の結果, 出現したと考えられる。また, 屋久島も南日本沿岸と同様に黒潮の影響を受けることが知られており(Motomura & Matsuura 2010), 屋久島で確認されたヒキマユメイチ(全長約 50–56 cm: 図 2C, D)の出現も黒潮による成魚輸送の結果である可能性が高い。したがって, ヒキマユメイチは八重山諸島周辺海域で再生産しているものの, 九州南部や屋久島周辺においては黒潮による一方的な供給のみで無効分散である可能性が示唆され, 今後の更なる調査が期待される。

これまで知られていた本種の国内における分布記録は上述の「分布」の項のとおりである。したがって, 本研究で記載した標本と写真資料は本種の日本本土と琉球列島北部における初めての記録であり, 宮崎県南部から得られた標本は本種の北限記録となる。

謝辞

本報告を取りまとめるにあたり, 喜界島サンゴ礁科学研究所の駒越太郎博士, 佐々木泰氏, および安田暢子氏, 鹿児島大学総合研究博物館ボランティアの皆さまと同館魚類分類学研究室の皆さまには標本の採集と調査にご協力して頂いた。ねこや商店の門川安秀氏および南郷漁業協同組合の皆さまには標本の採集および提供をしていただいた。山崎大悟氏と中島 衛氏には写真資料を提供して頂いた。宮崎大学の村瀬敦宣博士と神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能宏博士には写真資料の登録にご協力頂いた。これらの方々に謹んで感謝の意を表す。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金(29-737), 藤原ナチュラルヒストリー振興財団, 宮崎大学平成 29 年度戦略重点経費, JSPS 科研費(26241027, 26450265, 20H03311), JSPS 研究拠点形成事業 -B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, および文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」の援助を受けた。

引用文献

- 秋田雄一・太田格・海老沢明彦・上原匡人, 2016. 八重山海域における沿岸性魚類の種別漁獲量の推定. *Fauna Ryukyuan*, 31: 13–27.
- Allen, G. R. & M. V. Erdmann, 2012. Reef Fishes of the East Indies. Vols. 1–3. Tropical Reef Research, Perth.
- Borsa, P., P. Béarez, S. Paijo & W.-J. Chen, 2013. *Gymnocranius superciliosus* and *Gymnocranius satoi*, two new large-eye breams (Sparoidea: Lethrinidae) from the Coral Sea and adjacent regions. *Comptes Rendus Biologies*, 336: 233–240.
- Carpenter, K. E., 2001. Lethrinidae, emperors (emperor snappers). In: K. E. Carpenter & V. H. Niem (eds.), *FAO Species Identification Guide for Fishery Purposes. The Living Marine Resources of the Western Central Pacific. Vol. 5. Bony Fishes Part 3 (Menidae to Pomacentridae)*. Pp. 3004–3050. FAO, Rome.
- Carpenter, K. E. & G. R. Allen, 1989. *FAO species catalogue. Vol. 9. Emperor fishes and large-eye breams of the world (family Lethrinidae). An annotated and illustrated catalogue of lethrinid species known to date.* FAO Fisheries Synopsis, 9: i–v + 1–118, pls. 1–8.
- 藤原恭司・伊東正英・本村浩之, 2017. 鹿児島県から得られた日本初記録のタイ科魚類 *Acanthopagrus taiwanensis* イワツキクロダイ(新称). *魚類学雑誌*, 64: 107–112.
- Hata, H., M. Itou & H. Motomura, 2015. First Japanese record of the haemulid fish *Pomadasy kaakan* (Perciformes), from Kagoshima Prefecture, southern Japan. *Species Diversity*, 20: 115–120.
- 畑晴陵・大富潤・本村浩之, 2018. トカラ列島から得られた鹿児島県初記録および北限記録の準絶滅危惧種 アマクチビ(スズキ目: フエフキダイ科). *Nature of Kagoshima*, 44: 95–99.
- Hubbs, C. L. & K. F. Lagler, 1947. Fishes of the Great Lakes region. *Cranbrook Institute of Science Bulletin*, 26: i–xi + 1–213.
- 伊東正英・松沼瑞樹・岩坪洗樹・本村浩之, 2011. 鹿児島県笠沙沿岸から得られたアイゴ科魚類ゴマアイゴ *Siganus guttatus* の北限記録. *Nature of Kagoshima*, 37: 161–164.
- Iwatsuki, Y., H. Nagino, F. Tanaka, H. Wada, K. Tanahara, M. Wada, H. Tanaka, K. Hidaka & S. Kimura, 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes in the Hyuga Nada area, southwestern Japan. *Bulletin of the Graduate School of Bioresources, Mie University*, 43: 27–55.

- 小枝圭太, 2018. フェフキダイ科. 小枝圭太・畑晴陵・山田守彦・本村浩之 (編), 黒潮あたる鹿児島海内之浦漁港に水揚げされる魚たち. Pp. 315–319. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島.
- 三木涼平・桜井雄・岩槻幸雄, 2014. フェフキダイ科ヒキマユメイチ (新称) *Gymnocranius superciliosus* の日本からの初記録. 魚類学雑誌, 61: 85–88.
- 本村浩之, 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. (<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>)
- Motomura, H. & S. Harazaki, 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yakushima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. Bulletin of the Kagoshima University Museum, 9: 1–183.
- Motomura, H. & K. Matsuura (eds.), 2010. Fishes of Yaku-shima Island—A World Heritage Island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, Southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo.
- 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能宏, 2019. 宮崎県のさかなのまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育センター延岡フィールド, 延岡.
- Myers, R. F., 1999. Micronesian Reef Fishes. A Comprehensive Guide to the Coral Reef Fishes of Micronesia. Third Revised Edition. Coral Graphics, Guam.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara & K. Matsuura, 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. Memoirs of the National Museum of Nature and Science, 52: 205–361.
- 太田格・工藤利洋・山本以智人, 2008. 主要沿岸性魚類の体長－体重関係式 (八重山海域資源管理型漁業推進調査). 沖縄県水産海洋センター事業報告書, 69: 184–188.
- 島田和彦, 2013. フェフキダイ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定, 第三版. Pp. 960–968, 2014–2017. 東海大学出版会, 秦野.
- 下瀬環, 2018. フェフキダイ科. 中坊徹次 (編), 小学館の図鑑Z 日本魚類館. Pp. 288–291. 小学館, 東京.
- 和田英敏・伊東正英・本村浩之, 2019. 薩摩半島南西岸から得られたオオクチケカツオの日本における3個体目の記録およびブリハダムシの新たな宿主事例. Nature of Kagoshima,

45: 323–32.

- 山崎裕太・三木涼平・伊東正英・村瀬敦宣, 2019. 九州南部から得られたイトヨリダイ科ヒトスジタマガシラ *Scolopsis monogramma* の記録. 日本生物地理学会会報, 74: 93–97.

Distributional records of *Gymnocranius superciliosus* (Perciformes: Lethrinidae) from southern Kyushu and the Ryukyu Islands, Japan

Shunta Shibuya¹, Yukiya Ogata^{2,3}, Ryohei Miki^{2,4}, Hidetoshi Wada⁵ & Hiroyuki Motomura^{6,7}

¹Graduate School of Agriculture, Forestry and Fisheries, Kagoshima University, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-8580, Japan

²Nobeoka Marine Science Station, Field Science Center, University of Miyazaki, 376-6 Akamizu, Nobeoka, Miyazaki 889-0517, Japan

³Graduate School of Agriculture Master's Course, University of Miyazaki, 1-1 Gakuen-kibanadai-nishi, Miyazaki 889-2192, Japan

⁴Minaminaka Agriculture and Forestry Promotion Bureau, Miyazaki Prefecture, 1-12-1 Todaka, Nichinan, Miyazaki 887-0031, Japan

⁵The United Graduate School of Agricultural Sciences, 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan

⁶The Kagoshima University Museum, 1-21-24 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan

⁷Corresponding author: motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp

Abstract. Two specimens (206.7–383.5 mm standard length) of the western Pacific species *Gymnocranius superciliosus* Borsa, Béarez, Paijo & Chen, 2013, herein described in detail, were collected from southern Miyazaki Prefecture (Kyushu) and Kikai Island (Amami Islands, Kagoshima Prefecture). This species has been known only from the Yaeyama Islands (southern Ryukyu Islands, Okinawa Prefecture) and unknown localities in the Ryukyu Islands in Japanese waters. The Miyazaki specimen represents the first record of the species from the mainland of Japan and the northernmost record for the species. Examination of photographs of *Gymnocranius* during this study revealed that *G. superciliosus* also occurred in Yaku Island (Osumi Islands) and Okinoerabu Island (Amami Islands). This study suggests that *G. superciliosus* is widely distributed from southern Kyushu to the entire

Ryukyu Islands.

投稿日：2020年2月1日
受理日：2020年4月8日
発行日：2020年5月19日